

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 1 日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12535

研究課題名（和文）ロシア商船に見るロシア帝国の中近東進出策

研究課題名（英文）the Russian Empire's Advance to Middle East: in Case of the Russian Steam Navigation and Trading Company

研究代表者

左近 幸村（Sakon, Yukimura）

九州大学・経済学研究院・准教授

研究者番号：30609011

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：コロナ禍と戦争により、ロシアとウクライナへの渡航が困難になり、国際学会での報告も2件諦めざるをえなかったが、2020年度に名古屋大学出版会から『海のロシア史：ユーラシア帝国の海運と世界経済』を刊行できたことは、大きな成果である。19世紀後半から20世紀初頭にかけてのロシアの海運の状況を扱った同書には、刊行時点での本研究の成果も盛り込むことができた。現在までに6本の書評が出ており、一定の評価が得られていると考えられる。また、同書の一部を英語に翻訳し、Asian Review of World Historiesに掲載することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ロシアの海運の歴史については、日本のみならず国際的に見ても進んでいない。しかし、ロシア帝国が世界経済や国際政治とどのように関わったのかを明らかにするうえで、海運は格好の素材であり、拙著はその理解の一助となると思われる。関連して、近年歴史学において言われているグローバルヒストリーと、この四半世紀の間に進んだロシア帝国論の接点を作るのにも、拙著は貢献するはずである。また、2022年2月以来、ウクライナの歴史に関心が高まっているが、本研究の対象であるロシア商船はオデッサを基盤としており、経済史からウクライナとロシアの関係を考察する研究は、思わぬ形で社会的意義も有することになったと考えられる。

研究成果の概要（英文）：While the pandemic since 2020 and the war in Ukraine since 2022 prevented me from making research trips to Russia and presenting at two international conferences, I could publish my book "History of Maritime Russia: the Eurasian Empire and World Economy" from the University of Nagoya Press in 2020, describing the development of shipping trade in the Russian Empire from the late nineteenth century to the early twentieth century. The six reviews published so far have been generally positive. In 2023 the English article, based on the translation from the part of my book, was published in Asian Review of World Histories.

研究分野：ロシア史

キーワード：グローバルヒストリー ロシア帝国論 海域史 オデッサ

1. 研究開始当初の背景

本研究の学術的背景の1つとして、近年のロシア帝国論において経済史が停滞気味であることが挙げられる。そこで研究代表者は、1879年からオデッサとウラジオストクを結んだロシア義勇艦隊に着目し、経済史の観点からロシア帝国の統合と拡張を研究してきた。しかし研究を進める中で、義勇艦隊と並ぶ帝政ロシア最大の汽船会社ロシア商船(ロシア語名 Русское Общество Пароходства и Торговли 英名 the Russian Steam Navigation and Trading Company)の実像を把握する必要性を感じるようになった。同社は中近東の航路に強みを発揮し、極東の航路に強みを発揮した義勇艦隊とともに研究、比較することで、ロシア帝国の海運の全体像が見えてくると考えられる。

もう1つの学術的背景は海事史(maritime history)の興隆であり、その一環で地中海における人の交流の歴史研究も進んでいる。しかし *Mediterranean Historical Review* 2009年12月号の「オスマン帝国末期の港市」特集に見られるように、地中海とロシアの接点については等閑視されている。そこで、こうした研究上の欠落を埋める必要を感じるようになった。

2. 研究の目的

ロシアの「海の帝国」としての側面を明らかにするため、具体的には、1856年に設立され1917年のロシア革命によって消滅するロシア商船の歴史に着目した。同社は、ロシア帝国最大の海運会社であり、オデッサを基盤とし、黒海沿岸から東地中海、後にはバルト海やロシア極東まで、国内外の様々な港へ船を走らせたが、その背景には単なる経営上の戦略のみならず、ロシア政府の外交政策があった。しかし日本国内はもとより、海外においても同社の研究は断片的にしか行われていない。本研究は、ロシア商船を通じたロシア帝国の外交政策を、中近東方面を中心として明らかにするとともに、研究代表者がこれまで行ってきたロシア義勇艦隊の研究と結合することで、ロシア帝国論の海運政策を、より俯瞰的に論じようとするものだった。

3. 研究の方法

スタンダードな歴史学の実証研究である。ペテルブルクにあるロシア国立歴史文書館やロシア・ナショナル図書館で公文書や帝政期の出版物を見るほか、必要があればモスクワの外交文書館、ロンドンの国立公文書館、ヘルシンキの国立図書館等でも史料を収集する予定を立てていた。

4. 研究成果

最大の成果は、2020年度に名古屋大学出版会から『海のロシア史：ユーラシア帝国の海運と世界経済』を刊行できたことである。19世紀後半から20世紀初頭にかけてのロシアの海運の状況を扱った同書には、義勇艦隊の歴史だけでなく、ロシア商船の歴史についても概観しており、刊行時点での本研究の成果を盛り込むことができた。現在までに6本の書評が出ており、一定の評価が得られていると考えられる。また、同書の一部を英語に翻訳し、*Asian Review of World Histories* に掲載することができた。

また、学会報告としては、The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies(東京大学、2019年6月29日30日)で、”The Russian Empire's Attempts in the Eastern Mediterranean: The Case of the Russian Steam Navigation and Trading Company”と題した報告を行い、ロシア金融史のソフィ

ア・サロマチナ氏(モスクワ・ロモノソフ大学)などから、今後に向けて有益なアドバイスを
得ることができた。

しかし2020年3月以降は、コロナ禍のため海外渡航が困難になり、思うように海外での史料
調査ができなかった。国際学会での報告も、2件諦めざるをえなかった。加えて、2022年2月に
ロシアがウクライナへの侵攻を開始したことにより、ロシアでの調査がますます困難になった。
そのため、60年以上にわたるロシア商船の歴史を中途半端な形でしか研究できていないことは、
認めなければならない。

そんな中でも、2023年2月にヘルシンキの国立図書館へ行き、ロシア商船のバランス・シー
トなど、貴重な史料を入手することができた。現在、分析を進めている最中であり、今後、成果
として発表していきたい。本研究は、ウクライナの歴史と密接にかかわるものであり、現在の日
本におけるウクライナ史への関心の高まりを考えると、今後も続ける必要のある研究であると
考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 生田美智子、神長英輔、ヤロスラブ・シュラトフ、麓慎一、左近幸村 | 4. 巻 103 |
| 2. 論文標題 座談会 日露関係史の現在 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 ロシア史研究 | 6. 最初と最後の頁 76 95 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 左近幸村 | 4. 巻 728 |
| 2. 論文標題 研究フォーラム 一九世紀のロシアと極東 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 歴史と地理 | 6. 最初と最後の頁 55 58 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件/うち国際学会 2件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yukimura Sakon |
| 2. 発表標題 The Russian Empire's Attempts in the Eastern Mediterranean: The Case of the Russian Steam Navigation and Trading Company |
| 3. 学会等名 The 10th East Asian Conference on Slavic Eurasian Studies (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Yukimura Sakon |
| 2. 発表標題 Sergei Witte and the shipping associations: rethinking the Russian Empire from a maritime viewpoint |
| 3. 学会等名 The Fourth Asian Association of World Historians Congress (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

〔図書〕 計6件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Shigeru Akita, Hong Liu, Shiro Momoki, Atsushi Goto, Yoshihiro Taga, Masashi Okada, Hideaki Suzuki, Rie Takagaki, Yukimura Sakon, Takeshi Onimura, Kei Koga | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 palgrave macmillan | 5. 総ページ数 258 |
| 3. 書名 Changing Dynamics and Mechanisms of Maritime Asia in Comparative Perspectives | |

| | |
|------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 恒木 健太郎、左近 幸村 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 東京大学出版会 | 5. 総ページ数 288 |
| 3. 書名 歴史学の縁取り方 | |

| | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 著者名 左近 幸村 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 名古屋大学出版会 | 5. 総ページ数 354 |
| 3. 書名 海のロシア史 | |

| | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 著者名 桃木 至朗、中島 秀人 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 410 |
| 3. 書名 ものがつなく世界史 | |

| | |
|---------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 左近幸村 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 名古屋大学出版会 | 5. 総ページ数 - |
| 3. 書名 海のロシア史：ユーラシア帝国の海運と世界経済 | |

| | |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 恒木健太郎、左近幸村（編） | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 東京大学出版会 | 5. 総ページ数 - |
| 3. 書名 歴史の縁取り方 | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|---------------------------|-----------------------|----|
|---------------------------|-----------------------|----|

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|---------|---------|